

勢和小学校だより

明日も行きたくなる勢和小

～楽しく笑って過ごせるように、目標に向かってあきらめず、やって、考え、工夫しよう～



発行日：令和8年10月23日 第12号

心をつなぐ挨拶の力

後期始業式で子どもたちに「なぜ挨拶をするのかな？」と問いかけてみました。先生に言われているからというだけでなく、子どもたち一人ひとりが自分なりの意味で挨拶していることが分かりました。

子どもたちの声

「相手も自分も元気にしたいから」（6年生 村田桃香さん）

自分が挨拶を返してもらえず嫌だった経験から、挨拶されたら必ず返し、自分からも元気に声をかけるよう心がけているそうです。

「自分も相手も気持ちがいいから」（5年生 奥田すずさん）



「『今日も元気に学校に来ているよ』と伝えたいから」（3年生 亀田祈沙さん）

「お互いに一日嬉しい気持ちになれるから」（3年生 山田弥依さん）

先日の社会見学でも、バスの運転手さんに「おはようございます」とお辞儀をして挨拶する3年生の素敵な姿が見られました。昇降口での日常が、別の場所でも活きています。

挨拶は人と人との心を繋ぐ土台です。子どもたちが互いを大切にし合えるよう、今後も温かい挨拶の輪を広げていきます。ご家庭でも、励ましの声かけをお願いいたします。

地域課題に挑む！ 6年生・小野泰雅さんの探究発表

後期始業式において、夏休み多気郡児童生徒科学作品展で優良賞を受賞した6年生の小野泰雅さんが、全校児童を前に自作の農業ロボットとその実験成果についてプレゼンテーションを行いました。



泰雅さんは、負担の大きい農作業をロボットで改善することを目指し、LEGO を活用した「代掻き(しろかき)ロボット」を製作。実験用の田んぼを用いて、実際に代掻きがうまくできるか検証を重ねました。

車高を高くする、車輪を増やす、代掻き用アームの並びを工夫するなど、何度も試行錯誤を重ねてロボットを改良した結果、代掻きの成功率は75%まで上昇しました。まさに工夫と情熱の結晶です。

発表のまとめとして泰雅さんは、「農業だけでなく、医療や物流などの分野でもAI等の技術が普及すれば、人々の作業負担が軽減される」と将来の展望を語っていました。

地域の課題を自分事として捉え、自ら調べ、考え、解決策を導き出そうとするこの取組は、現在本校が推進している「探究活動」の極めて優れた手本となるものです。

泰雅さんの他、青少年健全育成の少年の主張作文で本校代表になった浦林茜さんが「『ほめる』という凶器」というテーマで書いた作文を披露しました。内容は次回の学校だよりでお知らせします。

みんなで取り組む、ケガのない学校づくり



毎月のケガの発生件数を記録し、全校児童にケガの防止を呼びかけている保健委員会が、ケガの発生件数が最も少なかった1年生と、昨年度と比べてケガの発生件数が最も減少した4年生を表彰しました。

また、廊下を歩いている人に生活委員会の児童が「いいね」と声をかける「いいね運動」の期間中は、期間外と比べて学校全体のケガの発生件数が少なくなっていることが分かりました。廊下を歩くことを意識する取組が、ケガの防止につながっていることがうかがえます。